

最新カナダ事情4

カナダの「通信事情」について

(株)つうけんアドバンスシステムズ 部長
元(社)北方圏センター職員

高桑 紀和

『歴史的情報通信先進国』のカナダ

カナダは、歴史的に見ても「情報通信」とのかかわりが深い国で、歴史上世界最初の「電話」は、1876年に、スコットランド生まれのカナダ人「アレクサンダー・グラハム・ベル」によって発明され、アメリカで最初に特許を取得したことから、カナダが発祥の地となっている。

以来、国内大手通信事業者の「Bell Canada」と幾つかの主力企業がカナダ国内における情報通信産業を牽引し、1世紀以上の間、電話機等の「通信機器」、「電話交換機」等の開発・普及を中心に、世界各国の情報通信システムのグレートアップに貢献し続けています。

現在では、情報通信にまつわる「コンピュータ機器」や「ソフト

ウェア」、「コンピュータ周辺装置」、「通信ネットワーク機器」、「計測器」等の分野でも、世界トップレベルの水準を誇っており、世界の情報通信技術をリードしていると言っても過言ではありません。

近年、世界各国において最新鋭の情報通信関連設備を整備することが、「社会経済基盤」、「国際競争力」などの面で、国内外の戦略上最も重要な要素になっていますが、カナダは、国土が広く、人口密度が低い地域が多くある地勢上、便利で豊かな生活を営むため、情報通信技術の開発や情報通信サービスの普及推進に国家を上げて力を注いできました。

また、カナダ国民の「情報通信技術・サービス」を積極的に活用する生活スタイルについても目を見張

るものがあります。

メトロバンクーバーの「通信利用環境」

「メトロバンクーバー」と呼ばれるバンクーバー市を核としたブリティッシュ・コロンビア(B.C)州南部地域一帯の21市町村と1選挙区によって構成される都市圏の「固定電話」や「公衆電話」は、大手通信事業者の「TELUS」が運営しています。

固定電話の設置時に、200ドル(2008年5月末現在・1ドル≒約105円)の預託金が徴収されますが、これは、遅滞なく基本料金や通信・通話料を払い続けた場合、1年後または解約時に全額返還されます。住宅用固定電話の月額基本料金は、基本保守費用込みで26・95ドル/月で、市内(地域内)の通信・通話は使い放題となっています。

最近では、インターネットの急速な普及によって、基本料や通話料が安価なインターネット電話(IP電話)の利用者が急増しています。

公衆電話は、携帯電話が広く普及した現在においても、非常緊急時等の「ライフライン」保全策の一環として、随所に設置されています。通話料金は、1回あたり25セントで、時間無制限となっているため、長時間通話しても疲れないように「椅子」が設置された公衆電話や、長距離・国際通話の利用に便利なクレジットカードが使用可能な公衆電話が多く設置されています。

世界共通の社会現象となっている「携帯電話」の急速な進展は、カナダ国内においても同様で、メトロバンクーバーでは、「Fido」、「TELUS Mobility」、「Rogers Wireless」



大手通信事業者「TELUS」の地域本部ビル

「Bell Mobility」の大手4社を核に熾烈なシェア争いをしています。利用料や通信機器による差別化に加え、「バンドル」と呼ばれる固定電話やケーブルテレビ、インターネット等のメディアやサービスの組み合わせによる大幅割引などによる顧客囲い込み戦略が積極的に展開されています。携帯電話の基本料金は、7ドル/月から様々なプランが用意されていますが、日本と異なる点は、非常緊急用電話番号「911」のシステム基本料金（50〜70セント/月）が利用者全てに徴収されることです。



長時間通話しても疲れないように配慮されている「公衆電話ブース」

また、日本と大きく事情が異なる点は、国民の90%以上がケーブルテレビ放送を利用して多彩なチャンネルを楽しんでいることです。ケーブルテレビ関連事業には、大手ケーブルテレビ事業者の「SHAW」の他、「TELUS」などの通信事業者も市場参入しており、175チャンネルを超えるケーブルテレビ放送が22ドル/月から視聴できます。

充実した「インターネット利用環境」

インターネット関連事業には、事業者以外にも通信やケーブルテレビ事業者等が数多く参入し、多彩なサービスメニューや利用料等によって、事業者間で熾烈な顧客獲得競争が展開されています。

テレビ（同軸）接続、日本の「ホットスポット」の地域版のような「Enhanced（無線）接続」が主流ですが、現在、光ファイバー網が整備されつつあり、光ファイバーを利用した高速・大容量のサービスが順次提供されています。

高速インターネットの利用料金は、大手事業者の一例をあげると、「256k帯域のダイヤルアップ接続」が16・95ドル/月、「Enhanced（無線）」が35・95ドル/月で、「5M帯域のADSL」や「広帯域のケーブルテレビ」が40・95ドル/月となっています。なお、ダイヤルアップ接続は、地域内通信・通話が使い放題のため、実質的に常時接続と変わらないのが特徴と言えます。

利用環境の面では、ホテルや空港等で手軽にインターネットが利用できる環境が整備されており、市立中



お客様の出入りが絶えない携帯電話ショップ（fido）

央図書館では、無線LAN設備やインターネットパソコンが無料で解放されている他、大学キャンパス内では、無線LAN設備や有線LANコンセント、電源設備が随所に設置されているなど、メトロバンクーバーにおける「インターネット利用環境」は非常に良く整備されています。

充実した「電話付加機能・サービス」

カナダ国内の通信事業者の交換機のはほぼ全数がデジタル化されているため、多種多様な電話サービスや付加機能が提供されています。また、地域内通話が高い放題で、電話の利用頻度が高いことから、日本の「キヤッチホン」や「トリオホン」、「転送電話」などの固定電話の付加機能の普及率が高いことが特徴です。

日本では「フリーダイヤル（01



ショッピングモール内の大手ケーブルテレビ事業者の宣伝ブース(SHAW)



地域内無料通話の電話や無料インターネット利用環境が整備されているホテルの部屋



空港の待合室に設置された「有料インターネットブース」



無料インターネット設備が解放されている「バンクーバー市立中央図書館」



UBCキャンパス内随所に設置されている有線LANコンセントと電源設備（無線LANも利用可能）

20)でお馴染みのサービスは、高利用かつ、アメリカと同じ電話番号域を使用することもあって、「1-800」から始まって以来、「1-888」、「1-877」、「1-866」、「1-855」と徐々に番号域が広がっており、今後、ますます普及することが見込まれています。

また、日本では「ダイヤルQ2(0990)」で知られるサービスは、「1-900」で同様のサービスを提供しています。

日本に無い付加機能としては、「Call Return」という機能が固定電話に標準装備されています。これは、「ナンバーディスプレイ」を応用したような機能で、ディスプレイ付電話機の場合、発信者の電話番号が表示され、最後に受けた電話の履歴を活用し、「9」をダイヤルすることで、発信者につけ直すことができます。

さるという機能です。この機能は、固定電話に標準装備されている「Call Trace」という機能にも応用されており、「嫌がらせ電話」等を着信した際、通話終了後に「*57」にダイヤルして日時を「TELUS Security」のシステムに登録することによって、相手を特定したり、被害状況などの証拠として記録を残すことができます。

利用習慣の面では、利用促進の環境として、「電話番号の読み替え」の習慣が定着しています。電話機の数字部分に付記されているアルファベットを利用することで、言葉と番号を掛け合わせることが可能となります。例えば、「JAL-DESK」とダイヤルすると、実質的に「525-3375」に繋がる仕組みで、企業の広報戦略にも積極的に利用されています。

「テレホンカード裏事情」

カナダでは、プリペイド式テレホンカードの人気が高く、スーパーやコンビニエンス・ストア、街角の代理店などで多種多様なテレホンカードが販売されています。全国で100社以上の事業者が参入しており、カナダは移民が多いことから、「アジア向け」、「ヨーロッパ向け」等の通話対地を絞った大幅割引をうたうなど、それぞれのメリットを最大限にアピールするプロモーションが行われています。

ただ、事業者によっては、十分な説明がされないまま、不透明な追加費用を課すタイプもあり、制度の認識不足によるトラブルも多く発生し、カードの選定には十分な注意が必要です。

トラブル多発例をあげると、「Maintenance Fee」は、事業者によ

て制度がまちまちですが、1度使用した場合、1週間に1回または1か月に1回1ドル程度の度数管理費用がカード度数残高から自動的に徴収される仕組みになっています。例えば、額面「5ドル」のカードを1度使用した後、1週間に1ドルずつ徴収されると、1カ月後には使用しなくても残度数がほとんどなくなってしまう。しかし、このタイプは、1回あたりの通話料が安く設定されているタイプが多く、1度に使い切る場合は有利とされています。その他、電話をかける度に「大手通信事業者への接続料」が課されるため、短時間、数多く利用する場合は不利になる「Connect Fee」や、例えば、30秒しか通話しなくても3分単位で課金される「最低課金単位」を意味する「Billing Increments」が設定されているタイプ、有効期限が設定さ



ダウンタウン随所にある「テレホンカード」販売代理店



車内での携帯電話・メールの使用規制がない「カナダの公共交通」

れているタイプがあるので、用途によって十分に検討する必要があります。

このように、高い人気とは背中合わせに、利用者にとって分かり難い費用がかかるタイプが多くあることから、他社との差別化のため、「追加費用が一切かからない」ことを最前面に打ち出しているテレホンカードもあります。

『情報リテラシー』と『利用モラル』

世界各国で情報通信サービスが急速に進展している一方で、「情報リテラシー」や「利用モラル」等の教育がなされる必要性が唱えられています。カナダにおいても同様です。

2007年12月にカナダで実際に起こった事例ですが、アルバータ州の油田で働く22歳の男性が、携帯電話の料金制度を熟知せずに、映画や

インターネットのコンテンツを好き勝手にダウンロードした結果、総額85,000ドル(約900万円)の請求書を受け取ったことがマスコミで大きく取り沙汰されました。請求書を発行したのは、国内最大手の通信事業者「Bell Canada」の携帯電話事業の子会社「Bell Mobility」で、男性は携帯電話をモデム代わりに利用できると勘違いし、大容量のコンテンツをダウンロードし続けた結果、このような巨額の請求になったとのことです。結果としては、「Bell Mobility」の好意によって、請求金額は3,400ドル(約36万円)まで減額されて一件落着きました。

また、警察・消防・救急への緊急通報は「911」で統一され、コンピューターが発信者の位置を特定し、自宅から何も告げずに電話を切

つてしまった場合でも、警察・消防・救急のすべての部隊が緊急出動する仕組みになっています。そのため、子供などが間違っかけてしまった場合でも、オペレーターが応答するまで待つて、間違いを告げる必要があります。特に、救急車は有料のため、間違って出動した場合でも利金を請求されるばかりか、警察官や消防員を空出動させた場合は、「大目玉をくらう」ことになります。

その他、カナダでは、地下鉄やバス等の中でも携帯電話が使用可能となっているシーンを良く見かけます。また、飛行機内でも、離発着と飛行時以外は携帯電話の利用が可能のため、乗降口のドアが閉まるまでの間や、着陸直後に携帯電話を利用する人が多くいるなど、「利用モラル」の面で首を傾げたくなる場面に遭遇することがあります。

情報通信を取り巻く「新たな風」

BC州南東部の溪谷「スローカン・バレー」を擁する「スローカン村」を含む3つの自治体と18の定住地区で構成される「スローカン・バレー地域」では、同地域の住民グループが、大手通信事業者の

「TELUS Mobility」に対し、計画されていた携帯電話用の電波塔建設等のシステム整備を見合わせるよう上申したことを報道発表しました。

この地域では、携帯電話が使えないことを逆手に取って、『ひっきりなしに携帯電話が鳴ったりすることのない生活を楽しめる』ことを強調し、『どこかで人間らしい生活を求める住民や観光客を引きつける』という新たなプロモーションを発表したことで、国内外から多くの共感を得、注目を集めています。

その一方で、他地域と比べて情報量が少ないことで不利益が生じないよう、ワイヤレス技術を用いた高速インターネットが利用できる環境を整備することで、「デジタルデバイス」に配慮していることや、『技術の進歩に反する姿勢を取っている訳ではない』ことを強調し、地域内外の理解を促しています。

情報通信を取り巻く環境として、他国と同様に利便性を追求し続け、最先端の技術を駆使した「眠らない」情報通信機器群に囲まれた「近代的な生活」を享受しつつも、「どこかで人間らしい生活」を実現しようという姿勢は、「カナダらしさ」を窺い知ることがができます。(了)